

埼群ラリーが復活！ 荻野聡 CA4A、24年めの初優勝

昨年一年間、休止していたJMRC埼玉群馬ラリーシリーズの復活を告げる一戦が、5月半ば、群馬県内で開催された。

今年のシリーズは、林道SSは自粛し、ジムカーナ、ダートトライアルコースといった競技用のコースや、駐車場などのクロードコースでSSを行うのが特長のひとつ。今回は須賀尾ダートサーキットと、その北西に位置する草津静可山のスキー場の駐車場に特設されたコースにSSが設けられた。

計5戦の今年は前半3戦はグラベル、後半2戦は舗装がSSの舞台となる予定。今回の開幕戦を含め、少なくとも3戦はデイラリーとなる予定であり、もう夜はツライというオジさん達も参加しやすいシリーズだ。若手の登竜門として知られる埼群シリーズだが、今回はそうしたオジさんドライバー達が活躍、各クラスで若手を抑える走りを見せてくれた。

まずBクラスでは、須賀尾でのSS1でセカンドベストを奪った金子茂/止境一夫組が続くラリー区間をゼロ減点で上がり、1ステージ首位に立つが、2ステージではスキー場SSでベストを奪った荻野聡/若井貴之組が、ラリー区間も無難にまとめて逆転、トップに立つ。

荻野組は、最終SSでベストを奪った小田英明/田巻明宏組に、1秒差に詰められるも、そのまま逃げ切って優勝。ドライバーの荻野選手は、途中7年

のブランクはあるものの、ラリーを始めて実に24年めにして初表彰台、初優勝という快挙を達成した。

これまではJMRC東京シリーズなどを追っていたという荻野選手は、「土曜も仕事で休めないので、日曜のデイラリーということで今日は参加しました。これまでは4位が最高でしたので、苦節24年といったところですよ」と表彰式で感慨深げな表情。新たな形でスタートしたシリーズが、新たな選手層を呼び込みつつある、という感じだ。

またAクラスでも「コルサヤングチーム」からエントリーの半熟年 (!) コンビ、平野靖/マンガ組がラリー区間で、ベテランの強みを発揮して優勝、おじさんパワーを見せつけた。そしてCクラスは、黒岩満好/南宏治組のランサーがぶっちぎって開幕戦を制した。

黒岩選手は90年代前半にパルサーで全日本DOCSウインタラリーにスポット参戦した経歴を持つ地元のスノースペシャリストの一人。ただし昨年は群馬ダートトライアルシリーズのチャンピオン獲得とあって、ライバル達にとってはちょっと分の悪い (!) 相手だ



Cクラス2位入賞の長谷川/河内組ランサー。

ったようだ。「自分ではやっぱりラリー屋という意識があるので、埼群復活ということでラリーに出たくなっちゃって。でも今日はダート屋の走りに徹しました(笑)」と黒岩選手。シリーズ前半のキーパーソンになるのはまず間違いなさそうだ。

なお併催されたJMRC関東チャレンジラリーシリーズ第2戦は吉野智英/丸山剛史組が2点差ではるばる静岡から駆けつけた土屋仁/住吉賢治組を下し、優勝を果たしている。



Bクラスを制し、ラリー初優勝を飾った荻野聡組。ナビの若井選手もラリー初優勝。



ツインで出場の近藤/角田組はAクラス2位。



金子/止境組はBクラス3位。



関東チャレンジ2位の土屋/住吉組スターレット。



Cクラス3位入賞の大辻/高橋組。



関東チャレンジで優勝を飾った吉野智英/丸山剛史組アルト。



Aクラスで優勝を飾った平野靖/マンガ組アルト。



小田/田巻組ミラージュはBクラス2位入賞。



SSで勝ち取ったマージンを生かして快勝の黒岩満好/南宏治組ランサー。



宮下/小林組はCクラス4位。



Bクラス4位の白上/下川組。



奥田/石井組はBクラス6位。



Bクラス5位の杉山/伊東組。



中沢/田村組はCクラス6位。



Cクラス5位の夏堀/佐藤組。